

神障教組新聞

神奈川県立障害児学校教職員組合
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-1-402
TEL/FAX 045(412)5161

ご入学・ご進級おめでとうございます

私たち神奈川県立障害児学校教職員組合（県立盲・ろう・養護学校23校の教職員で構成する組合、略称：神障教組）は、子どもたちが豊かに学べる教育条件づくりと、教職員が安心して健康に働ける学校づくりをめざして活動しています。

今年度も、障害児教育の充実に向けて、保護者や地域の皆さんと力を合わせてとりくんでいきたいと考えています。



— 養護学校の過大規模解消・養護学校への入学保障に向けて —
養護学校再編整備検討協議会報告にある「11校1分校」の早期実現を！

県予算[県立教育施設整備10力年(まなびや)計画]に、「養護学校の整備」が明記！

私たちは、組合結成直後の1988年から「養護学校の新設を求める運動」をすすめてきました。その運動の反映として、99年に「茅ヶ崎養護学校」が開校、04年に「津久井養護学校」が開校、06年度に「麻生養護学校」が開校、「金沢養護学校」が予定より1年前倒しでこの4月から開校となりました。また、2011年に相模原地域特別支援学校の開校も予算化されました。

06年3月の県教委「協議会」報告では、現在の養護学校過大規模化を解消し適正規模にするために、新たに11校1分校の養護学校設置が必要との画期的な答申が出されています。しかし、今年度の「まなびや10力年計画」には、まだ、その具体化が1校しか予算計上されていません。最優先としているのは「耐震・老朽化」対策事業であり、この予算総額(概ね1000億円)では、養護学校整備が進まないことが危惧されます。

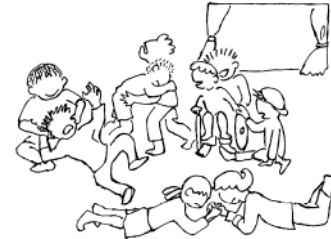


今年度は、養護学校の知的障害部門において、高等部の入試選抜が実施され、3校で定員超過による抽選が実施されています。今、養護学校の早期新設は、入学保障のためにも「待ったなし」の状況となっています。

豊かな教育実践研究をすすめています！

私たちは、障害児教育の職員としての専門性を高め、学校で子どもたちが生き生きと活動できるよう、「教育研究集会」や「教育実践講座」など、自主的な教育研究活動を行っています。また、特別支援教育シンポジウムなど、保護者のみなさんと一緒に、障害児教育の在り方を考えるとりくみをすすめています。

「特別支援教育」元年！ -「絵に描いた餅」にしないために-



6.3%の子どもたちへ「特別な支援が必要」と言われています。普通級1クラスに2~3人に該当します。こうした子どもたちに「支援」の光があたったのに、それを実効化するための条件整備はあまりに不足しています。

養護学校が、地域の支援センター機能を担うことが法制化されましたが、その人的配置・相談業務等施設の整備は全くといって良いほどなされませんでした。「特別支援教育」は、教職員の「資質向上・努力」のみに任される規模の事業ではありません。神障教組は、保護者のみなさんと「障害児教育の充実」をめざしてとりくみを進めます。

出直してよ！「障害者自立支援法」



「応益負担」を決め、利用者負担の増えたことにより、昨年度の半年で、施設への利用を中止した障害者は1625人(厚生労働省調査)にもものぼります。障害が重いほど負担感が大きく、福祉サービス低下を招いています。障害者団体による「出直して」の運動に、マスコミも注目し、政府は修正を余儀なくされ、対策事業を講じました。しかし、これはあくまで3年間限定の激変緩和措置です。抜本的な改善はなされていませ

＜昨年1万5千人が集った10・31フォーラム＞ん。自立支援法は、在学中の補装具作成や、移動支援事業・デイサービス等にも関連しており、今後も動向が注目されています。

保護者・地域との共同をめざして…

県立の障害児学校は今、多くの問題を抱えています。また、障害をもつ子どもたちが、土曜・長期休業中等に地域で活動する場も未整備のままです。私たちは、こうした障害児教育に関わる問題については、子どもたちを中心にすえ、保護者・地域のみなさんと協力してとりくんでいくことが大切と考えています。

みんなの力で要求実現

県議会請願署名と県教育予算

私たちは、障害児学校の施設・設備や教育施策など、障害児教育条件の充実・改善を県当局に対して求めています。その一環として、保護者や地域の皆さんと一緒に毎年とりくんでいる「ゆきとどいた神奈川の障害児教育を求める請願」署名は、過去最高数を更新し「38,258筆」を集め、県議会に提出しました(右項目)。請願は残念ながら12月県議会で不採択となりました。しかし、私たちがこれまで求めてきた請願項目内容に関連しては、今年度県予算には左記のような予算化がなされました。

＜2007年度予算に反映された主な内容＞

- [県立教育施設整備10カ年(まなびや)計画] 概ね1000億円
 - ・ 早急な対応が求められている耐震化・老朽化対策
 - ・ 県立高校改革推進計画
 - ・ 養護学校の整備
- 金沢養護学校の新校舎建設費 25億9000万円 (昨年からの総計32.5億円)
 - ・ 2007年4月より市立並木第3小学校跡地にて1年前倒しで開校
 - ・ 2008年4月に、新校舎(東金沢高校跡地)へ移転
- 養護学校分教室整備事業 549万円(▲214万円)
 - ・ みどり養護(新栄高校内)・保土ヶ谷養護(舞岡高校内)・瀬谷養護(大和東高校内)・相模原養護(橋本高校内)・鶴見養護(岸根高校内)の分教室運営費。
(昨年度の鎌倉養護の分教室は金沢養護学校へ移行)
- 「相模原地域特別支援学校」調査設計費 900万円
 - ・ 2011年度開校に向けて、校舎新設に向けての調査・設計費。
- 支援を必要としている子どもたちへのきめ細やかな対応 7億1256万円
(小中学校への特別支援教育非常勤講師の配置)
- 県立養護学校への看護師配置(03年度より実施)
 - ・ 肢体不自由校等11校に、看護師資格を有する教員を各2名配置
- スクールバス運営費 5億6998万円(▲973万円)
 - ・ 昨年度比の増車なく73台。通学に必要な台数が確保できているとは言えない。

＜主な請願項目(06年度)＞

- 「新たな養護学校再編整備検討協議会」最終報告(06年3月)をふまえ、過大規模解消に向けて養護学校新設の「総合計画」を策定してください。
- 当面、過大規模化している養護学校への入学を保障するため、用地確保が具体化している相模原方面への養護学校建設計画を早期策定して下さい。
- 小学校・中学校・高等学校で、特別な手だてを要する子どもたちに適切な支援ができるように、教職員配置や施設・設備の改善を行ってください。また、30人以下学級を直ちに実現してください。
- 医療的ケアを必要とする子どもたちのために、医療と教育との協働が円滑に行われるよう、施設・設備の整備や教職員の研修、医療スタッフの充実を行ってください。
- スクールバスを増車して、長時間乗車による身体的負荷を軽減して下さい。また、通学に必要な児童生徒全員が利用できるようにして下さい。
- 高等部卒業後の進路を保障するために、小規模作業所やグループホームなどへの支援制度を拡充して下さい。
- 障害者自立支援対策臨時特例基金積立金 51億5172万円
 - ・ 小規模作業所等への助成や通所事業者の送迎への助成等、国の交付金が原資。

